

町長公約としての合併推進は

合併推進は今後も続ける



鮫島 春男 議員

二期目は合併推進で出馬したが、公約実現について現在の状況はどうか。

の合併を推進する決議」を議決した時はすぐに行動を起こさず、なぜ今回の特別委員会での結果に

ついては行動が早かったのか。そのときの相手方の感触はどうであったか。

合意形成が必要

町長

7月31日の場合は、すぐ結果が出て私も予期しなかった。新聞に翌日出るということで、本町市長に大変失礼だと思い、日程調整して8月4日に報告に行った。相手方の印象としては、議会との合意形成が必要であるということを感じた。

文書提出の提案は

誰が考えたのか

鮫島議員

7月31日の特別委員会の前日に、なぜ議会に対して志布志市に文書を出す提案をしたのか。当初は編入合併についての補足説明をするだけのことであったはずが、誰が考えたのか。

申し入れは

議会との連名が必要

町長

執行部のみの意思表示だけでは不十分であった。住民の付託を受けた住民の代表者たる町議会の明確な意思表示が強く求められると感じていた。町執行部と議会の強力な一体性が必要不可欠であるという認識を持つ

たからであり、私と議会議員の連名でなくては、目的は達成できないと判断した。

このことについては、今まで合併について先進地研修も行っており、副町長とも話し合っただけの結果である。

いつ考えたのか

鮫島議員

文書での申し入れを早くから考えていたのであれば、特別委員会開催依頼の文書を出す時に、編入合併についての補足説明だけでなくこのことをなぜ事前にお願ひしなかったのか。

理解いただけるものと

思っていた

町長

当然理解いただけるという思いできており、7月30日に総務課長を通じて相談したところ、議長一任の判断での連記は難しいという事であった。31

単独では難しい

町長

町長が単独でやることに對してはなかなか難しいと思う。どうしても議会と一緒にやらなければならぬという思いである。

誰が利益を受け

誰が不利益を受けるか

鮫島議員

今後合併できなかった場合、誰が利益、不利益を受けると思うか。

想定していない

町長

志布志市との合併に向け、最大の努力をしていく。利益や不利益という類のものを受ける場合もあるかもしれないが、現段階で明確に答えられるものではない。

合併は推進していく

町長

合併特例新法の期限内での合併は、現在置かれている状況では大変厳しいが、合併を推進していく方向性で今後も進めていく。

志布志市への報告は

相手方の感触は

鮫島議員

10対5で「志布志市と